

平成31年3月2日付・山陰中央新報

高校就職内定率

島根93.5%、鳥取97.9%

1月末時点

島根、鳥取両労働局が、2019年春に山陰両県の高校、大学などを卒業予定の生徒、学生の1月末時点の就職内定率を公表した。高校は島根が前年同期比0

・8ポイント減の93.5%、鳥取が0.3ポイント増の97.9%。鳥取は同時期としては1995年以降の最高となった。

高校の内定者は、島根が就職希望者1315人中1230人、鳥取は1162人中1135人だった。大学、短大、専門学校の

就職内定率は、島根が2.7ポイント増の91.2%（1287人中1174人）、鳥取は0.9ポイント減の88.6%（2069人中1833人）。

内訳は、島根が大学・大学院90.0%（前年同期比0.1ポイント増）、短大・高専94.5%（同9.7ポイント増）、

専門学校・職業能力開発学校85.9%（同3.8ポイント増）。鳥取は大学・大学院90.2%（同0.5ポイント減）で、専門学校78.8%（同4.6ポイント減）で、短大、高専はそれぞれ1校のため非公表とした。

（中村成美）

松江 県立大生 ラオスの現状報告



県立大松江
キャンパス
(松江市浜乃
木7丁目)の
1年生12人が
東南アジア・
ラオスの現状
を伝える「ラ
オス広報部」
が2月28日、

同校で半年間の活動成果を関係者に報告し、2019年度は学生が現地を訪ね、子どもの支援を手掛ける計画を明らかにした一写真。

メンバーは、ラオスに支援が行き届いていない現状に着目。学生の課外活動を支援する県立大の助成金採択を受け、18年7月から同国の文化や現状を伝える活動に取り組んでいる。

報告会で12人が、高校生にラオス料理教室を開いたり、JICA中国のイベントで現状を伝えたりした成果を紹介し「身近なところからできる活動があると知ってもらえた」と振り返った。来年度はラオスを訪れ、現地の子どもの絵本を読み聞かせる活動を行う。

リーダーで総合文化学科の森脇美麗空さん(19)は「今後は直接支援し、自分の目を見た現地の様子を伝えたい」と話した。
(岩垣梨花)

島根県大不正アクセス 迷惑メール3.8万件送信

パスワード盗まれ

島根県立大（本部・浜田市野原町）は1日、同大の学内メールが不正アクセスの被害を受け、学生1人のアドレスから外部に3万8千件の迷惑メールを送信していたと発表した。個人情報報の流出は確認されていない。同大は全学生と教職員

に注意喚起し、パスワードの変更を呼び掛けた。

同大メディアセンターによると、不正アクセスは2月26日、同大の担当者がシステムの警告に気付き、発覚した。調査の結果、学生のメールに設定してあったパスワードが盗まれ、同日に迷惑メールの送信が始まっていた。3万8千件のうち、実際に相手へ届いたとみられるのは6542件

だった。迷惑メールは、ロシア語や英語のサイトに誘導する内容だったという。

また、名前や所属が分かる学内関係者のアドレス帳2476件、学生が送受信していたメール148件を、不正アクセスした人物が閲覧できる状態だったという。同大は県警に被害届を出す予定。

（鎌田剛）

島根県立大人試 前期366人が合格

島根県立大は6日、2019年度一般入試の前期日程の合格者を発表した。総合政策学部（浜田キャンパス）と看護栄養学部（出雲キャンパス）、人間文化学部（松江キャンパス）で計366人が合格した。

総合政策学部は3教科型で345人が受験し、138人が合格した。受験者数を合格者数で割った実質倍率は2.50倍と、昨年度の実質倍率3.85倍から下がった。同学部の5教科型は92人が合格し、2.39倍となった。後期日程は12日に試験がある。

人間文化学部では保育教育学科で28人、地域文化学科は35人が合格し、実質倍率はそれぞれ2.93倍、2.77倍だった。地域文化学科のみ後期日程があり、12、13の両日に実施する。

看護栄養学部では、看護学科で51人、健康栄養学科で22人が合格し、実質倍率はそれぞれ1.65倍、2.32倍だった。同学部では後期日程試験を実施しない。

（鎌田剛）

島根町の資料保全指導



中野 洋平さん

（松江市南田町）

松江市島根町の「島根町誌」の編さん時に収集された資料の目録デジタルデータ化を学生に提案し、指導を行った。「資料の劣化を防ぐとともに学生たちに地域に目を向けてほしい」とゼミを開いた狙いを話す。

2018年4月から島根県立大人間文化学部地域文化学科の講師を務め、民俗学を専門とする。島根大講師だった2年前、教育活動の一環で島根町と関わりを持ち、研究を始めた。「島根町には素晴らしい歴史や文化が残っているが、一番の魅力は町民の人柄だ」と力説する。

今後は目録だけでなく、資料自体のデータ化を目標とする。「町の貴重な資料や民具を保存し、次世代に継承したい」と意欲を燃やす。39歳。（重田耕壮）

山陰 3 大学 1575 人 後期試験に挑む

国公立大 2 次試験の後期日程が 12 日始まり、山陰両県は島根大、鳥根県立大、鳥取大の 3 大学で計 1575 人が挑んだ。

(26 面参照)

島根大は全 6 学部の募集定員 195 人に対し、54 人が受験。個別試験を課さない総合理工学部建築デザイン学科(募集人員 8 人)

を除く受験倍率は、前年度比 2・7 割減の 2・9 倍だった。学部学科別では生物資源科学部環境共生科学科(同 13 人)の 5・4 倍が最も高かった。

鳥根県立大は総合政策学部(同 25 人)の面接試験に 63 人が出席し、倍率は 2・5 倍。12、13 の両日に面接を行う人間文化学部地域文化学科(同 10 人)は、初日は 34 人が受けた。

鳥取大は個別試験を課さ

ない農学部(同 25 人)を除く 3 学部で 934 人が受験し、倍率は前年比 0・1 割減の 4・6 倍だった。

合格発表は鳥根県立大が 20 日、鳥取大が 21 日、島根大が 22 日。鳥取環境大は 13 日に試験を行い、合格発表は 22 日。

(森山郷雄)

高校就職内定率 鳥取最高98・8%

2月末、島根96・6%

島根、鳥取両労働局が28日、2019年春に山陰両県の高校、大学などを卒業予定の生徒、学生の2月末時点の就職内定率を発表した。高校は、鳥取が前年同期比0・2ポイント増の98・8%で、同時期として統計を取り始めた1995年以降の最高となった。島根は1・3ポイント減の96・6%だった。高校の内定者は、島根が就職希望者1316人中1271人、鳥取は1158人中1144人だった。

は0・1ポイント増の94・8%（2012人中1908人）。内訳は、島根が大学・大学院92・5%（前年同期比1・0ポイント増）、短大・高専96・0%（同9・2ポイント増）、専門学校・職業能力開発学校90・5%（同4・0ポイント増）。

鳥取は大学・大学院97・1%（同1・6ポイント増）、専門学校87・3%（同3・5ポイント減）。短大、高専はそれぞれ1校のため非公表とした。

（中村成美）

大学、短大、専門学校の就職内定率は、島根が2・2ポイント増の93・4%（12276人中1192人）、鳥取